

シラバス

指定番号 4 0

商号又は名称： 株式会社ギア

科目番号・科目名	(1) 職務の理解			
指導目標	これからの介護が目指すべき、その人の生活を支える「在宅におけるケア」等の実践について、介護職がどのような環境で、どのような形で、どのような仕事を行うのか、具体的なイメージを持って実感し、以降の研修に実践的に取り組めるようになる。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 多様なサービスの理解	3	3	0	○介護保険サービス（居宅、施設） ○介護保険外サービス
② 介護職の仕事内容や働く現場の理解	3	3	0	○居宅、施設の多様な働く現場におけるそれぞれの仕事内容 ○居宅、施設の実際のサービス提供現場の具体的なイメージ ○ケアプランの位置付けに始まるサービスの提供に至るまでの一連の業務の流れとチームアプローチ・他職種、介護保険外サービスを含めた地域の社会資源との連携 <演習> 介護職の仕事内容についてグループディスカッションを行う
(合計時間数)	6	6	0	

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を 0 にすることはできない。なお、通信時間数については別紙 3 に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30 分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 40

商号又は名称： 株式会社ギア

科目番号・科目名	(2) 介護における尊厳の保持・自立支援			
指導目標	介護職が、利用者の尊厳のある暮らしを支える専門職であることを自覚し、自立支援、介護予防という介護・福祉サービスを提供するにあたっての基本的視点及びやってはいけない行動例を理解している			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
③ 人権と尊厳を支える介護	4	4	0	○人権と尊厳の保持 ○ICF ○QOL ○ノーマライゼーション ○虐待防止・身体拘束禁止 ○個人の権利を守る制度の概要 <演習> 虐待防止や個人の権利についてグループディスカッションを行う
④ 自立に向けた介護	3	3	0	○自立支援 ○介護予防
⑤ 人権啓発に係る基礎知識	2	2	0	○人権について ○人権への取り組み ○身近な人権のこと
(合計時間数)	9	9	0	

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を 0 にすることはできない。なお、通信時間数については別紙 3 に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30 分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 40

商号又は名称：株式会社ギア

科目番号・科目名	(3) 介護の基本			
指導目標	介護職に求められる専門性と職業倫理の必要性に気づき、職務におけるリスクとその対応策のうち重要なものを理解している。介護を必要としている人の個別性を理解し、その人の生活を支えるという視点から支援を捉える事ができる。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
⑥ 介護職の役割、専門性と多職種との連携	2	2	0	○介護環境の特徴の理解 ○介護の専門性 ○介護に関する職種
⑦ 介護職の職業倫理	2	2	0	○専門職の倫理の意義 ○介護の倫理 ○介護職としての社会的責任 ○プライバシーの保護・尊重 <演習> 職業倫理の重要性についてグループディスカッションを行う
⑧ 介護における安全の確保とリスクマネジメント	1	1	0	○介護における安全の確保 ○事故予防、安全対策 ○感染対策
⑨ 介護職の安全	1	1	0	○介護職の心身の健康管理 介護職の健康管理が介護の質に影響、ストレスマネジメント 腰痛の予防に関する知識、手洗い・うがいの励行、手洗いの基本、感染症対策
(合計時間数)	6	6	0	
使用する機器・備品等				

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を 0 にすることはできない。なお、通信時間数については別紙 3 に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30 分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 40
商号又は名称: 株式会社ギア

科目番号・科目名	(4) 介護・福祉サービスの理解と医療との連携			
指導目標	介護保険制度や障がい者総合支援制度を担う一員として最低限知っておくべき制度の目的、サービス利用の流れ、各専門職の役割・責務について、その概要のポイントを列挙できる。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
⑩ 介護保健制度	3	3	0	○介護保険制度創設の背景及び目的、動向 ○仕組みの基礎的理解 ○制度を支える財源、組織、団体の機能と役割
⑪ 医療との連携とリハビリテーション	3	3	0	○医行為と介護 ○訪問看護 ○施設における看護と介護の役割・連携 ○リハビリテーションの理念
⑫ 障がい者総合支援制度およびその他制度	3	3	0	○障がい者福祉制度の理念 ○障がい者総合支援制度の仕組みの基礎的理解 ○個人の権利を守る制度の概要 <演習> 障がい者支援(制度・サービス)の理念について グループディスカッションを行う
(合計時間数)	9	9	0	

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 40

商号又は名称：株式会社ギア

科目番号・科目名	(5) 介護におけるコミュニケーション技術			
指導目標	高齢者や障がい者のコミュニケーション能力は一人ひとり異なることと、その違いを認識してコミュニケーションを取ることが専門職に求められていることを認識し、初任者として最低限の取るべき（取るべきでない）行動例を理解している。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
⑬ 介護におけるコミュニケーション	3	3	0	○介護におけるコミュニケーションの意義、目的、役割 ○コミュニケーション技法、道具を用いた言語的コミュニケーション ○利用者・家族とのコミュニケーションの実際 ○利用者の状況・状況に応じたコミュニケーション技術の実際 ＜演習＞ グループに分かれてコミュニケーション技法を実践する
⑭ 介護におけるチームのコミュニケーション	3	3	0	○記録における情報の共有化 ○報告 ○コミュニケーションを促す環境
(合計時間数)	6	6	0	

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を 0 にすることはできない。なお、通信時間数については別紙 3 に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30 分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 40
商号又は名称：株式会社ギア

科目番号・科目名	(6) 老化の理解			
指導目標	加齢・老化に伴う心身の変化や疾病について、生理的な側面から理解することの重要性に気づき、自らが継続的に学習すべき事項を理解している。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
⑮ 老化に伴うこととからだの変化と日常	3	3	0	○老年期の発達と老化に伴う心身の変化の特徴 ○老化に伴う心身の機能の変化と日常生活への影響
⑯ 高齢者と健康	3	3	0	○高齢者の疾病と生活上の留意点 ○高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点 <演習> 高齢者の心身の変化や生活上の留意点についてグループディスカッションを行う
(合計時間数)	6	6	0	

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を 0 にすることはできない。なお、通信時間数については別紙 3 に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30 分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 40
商号又は名称: 株式会社ギア

科目番号・科目名	(7) 認知症の理解			
指導目標	介護において認知症を理解することの必要性に気づき、認知症の利用者を介護する時の判断の基準となる原則を理解している。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
⑰ 認知症を取り巻く状況	1	1	0	○認知症ケアの理念 パーソンセンタードケア 認知症ケアの視点
⑱ 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	2	2	0	○認知症の概念、認知症の原因疾患とその病態、原因疾患別ケアのポイント、健康管理 認知症の定義、もの忘れとの違い、せん妄の症状、健康管理(脱水・便秘・低栄養・低運動の防止、口腔ケア)、治療、薬物療法、認知症に使用される薬
⑲ 認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活	2	2	0	○認知症の人の生活障がい、心理・行動の特徴 ○認知症の利用者への対応 <演習> 認知症の利用者への対応、コミュニケーションのとり方についてグループディスカッションを行う
⑳ 家族への支援	1	1	0	○認知症の受容過程での援助 ○介護負担の軽減(レスパイトケア)
(合計時間数)	6	6	0	

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 40

商号又は名称：株式会社ギア

科目番号・科目名	(8) 障がいの理解			
指導目標	障がいの概念と ICF、障がい者福祉の基本的考え方について理解し、介護における基本的な考え方について理解している。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
21 障がいの基礎的理解	1	1	0	○障がいの概念と ICF ICF の分類と医学的分類、ICF の考え方 ○障がい者福祉の基本理念 ノーマライゼーションの概念
22 障がいの医学的側面、生活障がい、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識	1	1	0	○身体障がい ○知的障がい ○精神障がい ○その他の心理の機能障がい
23 家族の心理、かかわり支援の理解	1	1	0	○家族への支援 障がいの理解・障がいの受容支援 介護負担の軽減
(合計時間数)	3	3	0	

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を 0 にすることはできない。なお、通信時間数については別紙 3 に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30 分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 40

商号又は名称：株式会社ギア

科目番号・科目名	(9) こころとからだのしくみと生活支援技術			
指導目標	介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法等を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護が実施できる。尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得する。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
24 介護の基本的な考え方	2	2	0	○倫理に基づく介護 (ICFの視点に基づく生活支援、我流介護の排除) ○法的根拠に基づく介護
25 介護に関するこころのしくみの基礎的理解	4	4	0	○学習と記憶の基礎知識 ○感情と意欲の基礎知識 ○自己概念と生きがい ○老化や障がいを受け入れる適応行動とその阻害要因 ○こころの持ち方が行動に与える影響 ○からだの状態がこころに与える影響
26 介護に関するからだのしくみの基礎的理解	6	6	0	○人体の各部の名称と動きに関する基礎知識 ○骨・関節・筋に関する基礎知識、ボディメカニクスの活用 ○中枢神経系と体性神経に関する基礎知識 ○自律神経と内部器官に関する基礎知識 ○こころとからだを一体的に捉える ○利用者の様子の普段との違いに気づく視点
27 生活と家事	6	6	0	○家事と生活の理解、家事援助に関する基礎的理解と生活支援 生活歴、自立支援、予防的な対応、主体性・能動性を引き出す、多様な生活習慣、価値観
28 快適な居住環境整備と介護	6	6	0	○快適な居住環境に関する基礎知識、高齢者・障がい者特有の居住環境整備と福祉用具に関する留意点と支援方法
29 整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	6	6	0	○整容に関する基礎知識、整容の支援技術 身体状況に合わせた衣服の選択、着脱 見たく、整容行動、洗面の意義・効果 <演習実施方法> 演習方法：ベッドの上や車いす等の状況に応じた場面を想定しながら介護技術を習得する。 指導体制：講師＋補助者
30 移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	6	6	0	○移動・移乗に関する基礎知識、さまざまな移動・移乗に関する用具とその活用方法、利用者、介助者にとって負担の少ない移動・移乗を阻害するこころとからだの要因の理解と支援方法、移動と社会参加の留意点と支援 <演習実施方法> 演習方法：車いす・杖等を使い状況に応じた場面を想定しながら介護技術を習得する 指導体制：講師＋補助者
31 食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	6	6	0	○食事に関する基礎知識、食事環境の整備・食事に関連した用具・食器の活用方法と食事形態とからだのしくみ、楽しい食事を阻害するこころとからだの要因の理解と支援方法、食事と社会参加の留意点と支援 <演習実施方法> 演習方法：ベッドの上や車いす等の状況に応じた場面を想定しながら介護技術を習得する。 指導体制：講師＋補助者

32 入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6	6	0	○入浴、清潔保持に関連した基礎知識、さまざまな入浴用具と整容用具の活用方法、楽しい入浴を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法 ＜演習実施方法＞ 演習方法：浴槽やベッド等を使い状況に応じた場面を想定しながら介護技術を習得する 指導体制：講師＋補助者
33 排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6	6	0	○排泄に関する基礎知識、さまざまな排泄環境整備と排泄用具の活用方法、爽快な排泄を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法 ＜演習実施方法＞ 演習方法：簡易トイレやベッド等を使い状況に応じた場面を想定しながら介護技術を習得する 指導体制：講師＋補助者
34 睡眠に関したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6	6	0	○睡眠に関する基礎知識、さまざまな睡眠環境と用具の活用方法、快い睡眠を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法 ＜演習実施方法＞ 演習方法：ベッド等を使い状況に応じた場面を想定しながら介護技術を習得する 指導体制：講師＋補助者
35 死にゆく人に関したところとからだのしくみと終末期介護	3	3	0	○終末期に関する基礎知識とところとからだのしくみ、生から死への過程、「死」に向き合うところの理解、苦痛の少ない死への支援
36 介護過程の基礎的理解	6	6	0	○介護過程の目的・意義・展開 ○介護過程とチームアプローチ
37 総合生活支援技術演習	6	6	0	○事例による展開 生活の各場面での介護については、ある状態像の利用者を想定し、一連の生活支援を提供する流れの理解と技術の習得、利用者の心身の状況にあわせた介護を提供する視点の習得を目指す。 ＜演習実施方法＞ 演習方法：ベッドや車いす等を使い状況に応じた複合的な場面を想定しながら介護技術を習得する 指導体制：講師＋補助者
(合計時間数)	75	75	0	

使用する機器・備品等	ベッド、車いす、浴槽、トイレ等
------------	-----------------

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス

指定番号 40
商号又は名称: 株式会社ギア

科目番号・科目名	(10) 振り返り			
指導目標	研修全体を振り返り、本研修を通じて学んだことについて再確認を行うとともに、就業後も継続して学習・研鑽する姿勢の形成、学習課題の認識をはかる。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
38 振り返り	2	2	0	○研修を通して学んだこと ○今後継続して学ぶべきこと ○根拠に基づく介護についての要点 <演習> 介護業務における基本的態度についてグループに分かれて模擬演習を行う
39 就業への備えと研修修了後における事例	2	2	0	○継続的に学ぶべきこと ○研修修了後における継続的な研修について、具体的にイメージできるような事業所等における事例 (Off-JT、OJT) を紹介
(合計時間数)	4	4	0	

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を 0 にすることはできない。なお、通信時間数については別紙 3 に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30 分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。